

東華大学・名古屋大学

2014 年「日本語文化研究」学術研究会

資料集

東華大学・名古屋大学 共催

2014 年 3 月 29 日

於東華大学延安西路キャンパス

第三講義棟 4F ホール

参加者名簿

1. 名古屋大学大学院国際言語文化研究科(9名)

名前	専攻	講座名	地位
福田 真人	日本語文化専攻	日本語文化学講座	研究科長・教授
玉岡 賀津雄	日本語文化専攻	日本語教育学講座	副研究科長・教授
楊 暁文	国際多元文化専攻	東アジア言語文化講座	教授
堀江 薫	日本語文化専攻	応用言語学講座	教授
星野 幸代	国際多元文化専攻	ジェンダー論講座	准教授
杉村 泰	日本語文化専攻	日本語教育学講座	准教授
MCGEE, Dylan	比較言語文化コース	グローバル 30	特任准教授
伊東 章子	国際教育交流センター	—	特任講師
長嶋 かよ	名古屋大学文系総務課総務G, 総務第2掛		事務職員・掛長

2. 東華大学外国語学院 (8名)

名前	専攻	講座名	地位
林 嶸	—	—	外語学院書記
張 厚泉	外国語及び外国語応用言語学	言語と文化；日本近代化	教授
王 蕾	外国語及び外国語応用言語学		副主任・講師
李 薇	外国語及び外国語応用言語学	日本語教育；	主任補佐・副教授
孫 攀河	日本語と日本文学	日本史	講師
張 雅君	外国語及び外国語応用言語学	日本文学	副教授
胡 雲雁	日本語と日本文学	日本語教育	講師
黄 潔	日本語と日本文学	日本文化	講師

3. 特別招請 上海外国語大学 (2名)

名前	専攻	講座名	地位
許 慈恵	日本語と日本文学	日本語学；日本語教育	学院長・教授
毛 文偉	日本語と日本文学	日本語学；日本語教育	科研処副処長・教授

東華大学・名古屋大学 2014年「日本語文化研究」学術研究会

プログラム

司会：黄潔

時間	順序	講演者名	講演タイトル
10:00 - 10:05	#1	林 嶸 書記 (東華大学外語学院)	ご挨拶
10:05 - 10:10	#2	許 慈恵 教授 (上海外国語大学日本文化经济学院長・中国語教学研究会常務副会長)	ご挨拶
10:10 - 10:15	#3	福田 眞人 教授 (名古屋大学大学院国際言語文化研究科長)	ご挨拶
10:15 - 10:35	講演 #1	許 慈恵 (上海外国語大学)	日本語教育の質を保つための第二教室への工夫
10:40 - 11:00	講演 #2	王蕾・李薇・張厚泉 (東華大学)	東華大学日本語学科の特色作り
11:05 - 11:25	講演 #3	李薇・孫攀河・張雅君 (東華大学)	タスク型の国際交流と创新型の教育実践
11:30 - 11:50	講演 #4	張雅君・胡雲雁・黄潔 (東華大学)	「科学技術交流能力」の国際共同単位プログラム
12:00 - 13:00	記念写真・昼食(弁当)		
13:00 - 13:30	講演 #1	福田 眞人 教授 (名古屋大学)	日本文化研究の可能性について
13:35 - 14:05	講演 #2	楊 暁文 (名古屋大学)	ノーベル文学賞に関する学術的研究
14:10 - 14:40	講演 #3	星野 幸代 (名古屋大学)	近現代日中比較舞踊史
14:45 - 15:15	講演 #4	MCGEE, Dylan (名古屋大学)	近世日本における「水滸伝」の翻訳及び翻案
15:20 - 15:30	コーヒーブレイク		
15:30 - 16:00	講演 #5	杉村 泰 (名古屋大学)	日本語教育のための文法研究
16:05 - 16:35	講演 #6	玉岡 賀津雄 (名古屋大学)	読解における橋渡し推論の重要性
16:40 - 17:10	講演 #7	堀江 薫 (名古屋大学)	言語類型論・認知類型論からみた日本語と中国語の相違点と類似点
17:15 - 17:45	講演 #7	伊東 章子 (名古屋大学)	名古屋大学における研究生と院生の受け入れ
17:30 - 20:00	夕食会 (東華大学関係者, 名古屋大学修了生およびその友人との交流会)		

1. 講演要旨 目次

講演#1	上海外国語大学日本語専攻の特色作り	許 慈恵
講演#2	東華大学日本語専攻の特色作り	王 蕾・李 薇・ 張 厚泉
講演#3	タスク型の国際交流と创新型の教育実践	李 薇・孫 攀河・ 張 雅君
講演#4	「科学技術交流能力」の国際共同単位プログラム	張 雅君・胡 雲雁 黄 潔
講演#5	日本文化研究の可能性について	福田 真人
講演#6	ノーベル文学賞に関する学術的研究	楊 暁文
講演#7	近現代日中比較舞踊史	星野 幸代
講演#8	近世日本における「水滸伝」の翻訳及び翻案	MCGEE, Dylan
講演#9	日本語教育のための文法研究	杉村 泰
講演#10	読解における橋渡し推論の重要性	玉岡 賀津雄
講演#11	言語類型論・認知類型論からみた日本語と中国語の相違点と類似点	堀江 薫
講演#12	名古屋大学における研究生と院生の受け入れ	伊東 章子

2. 講演者プロフィール

日本語教育の質を保つための第二教室への工夫

許慈恵（上海外国語大学）

キーワード

第二教室への工夫 宿題の出題や添削 課外活動

世の中が変わっている、中国大学の日本語専攻の学生も昔ほど勉強しなくなっている、教育の質も落ちている、といった声をよく聞く。確かにその一面があるといえる。その背景にはいくつかの原因があるが、従来あるいは従来以上の大学教育の質を求めるために、われわれは教員として、その現象に対応し対策を考えなければならない。教育者として責任感を強く持って、宿題の出題・添削など授業外での学習指導や介入管理を積極的に行うことが、対策になるであろう。

学生の学習意欲の低下及びその要因

第一に、この20年来中国全土で大学の数が増加し、大学教育も大衆化時代に入った。

第二に、社会のニーズに対する考え方が変化し、日本語力はさほど求めない。

第三に、社会のニーズに合わせて、学生の価値観も変わってきた。

第四に、ネット遊びに自分で日本語学習の時間をとられてしまいがち。

対策

教育者として、実利に走る学生に対して、ステレオタイプ的な批判の言葉を口にするのは簡単だが、社会情勢をよく知っているだけに、その批判も容易にはできないのである。批判はできなくとも気持ちさえあれば、前向きにその問題解決の対策はいくらでも練りだすことが可能である。

3-1. 対策一 授業外指導

3-1-1. 宿題添削

3-1-2. 宿題訂正追跡

3-2. 対策二 課外活動（上海外国語大学を例に）

3-3. 対策三 学生の授業外の学習の介入管理

- 1. クラス担当（指導教官）→1週に1コマ
- 2. 補導員→大学側と学生との間の架け橋、欠かせない存在
- 3. 共産党組織

まとめにかえて

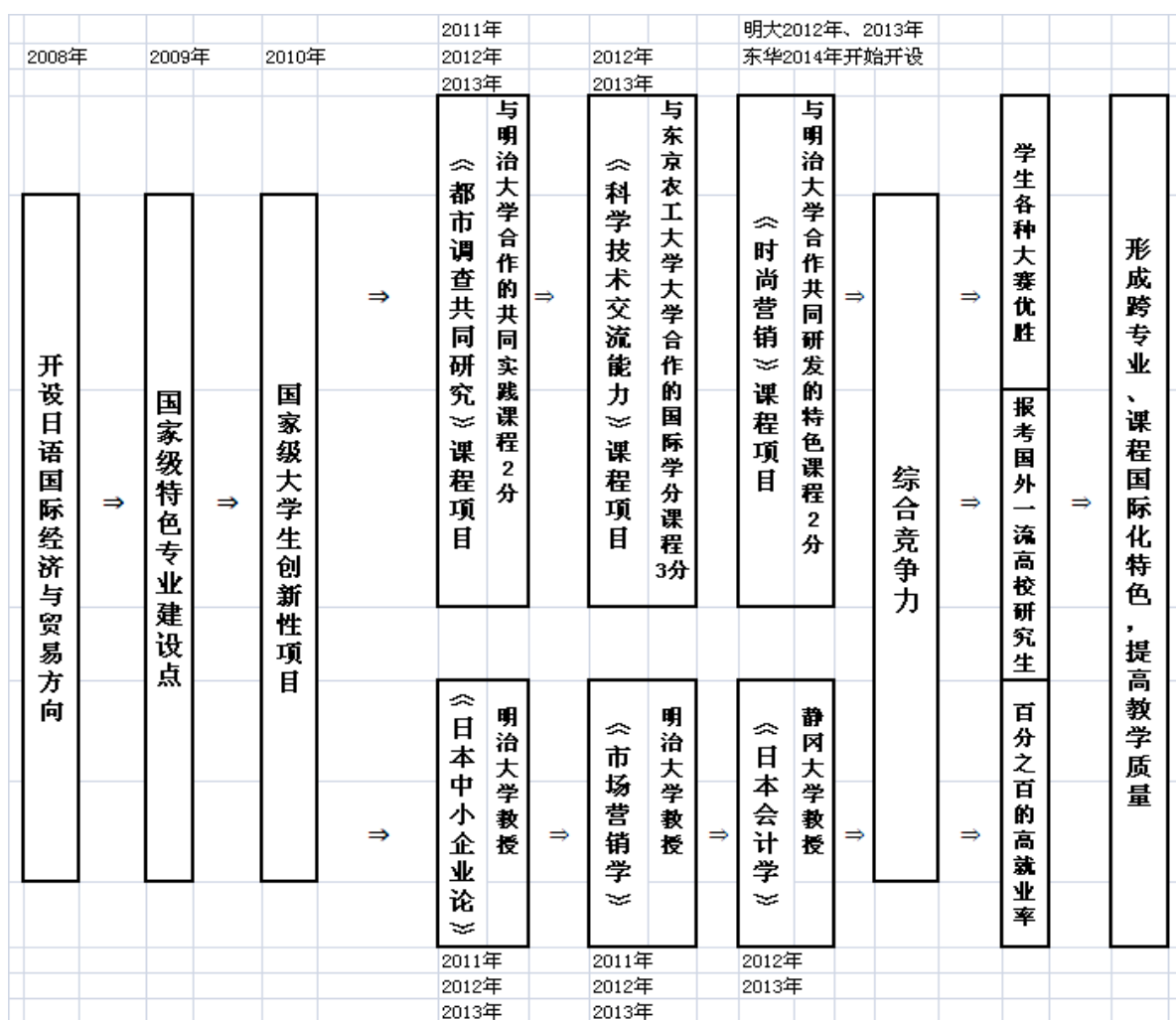
- 学生は学校で学習して専門知識を習得することが要務
- 学生への管理、人間の管理、人間の心の管理→学問
- 学生への介入管理→教員、特に外国語教員の仕事のうち
- 中国大学、中国の特色ある管理体制のもとに①大学側、②教員、③中間管理職
→役割→大学の教育の質の向上

東華大学日本語学科の特色作り

王蕾・李薇・張厚泉（東華大学）

东华大学日语专业成立于2002年，为了适应经济社会发展的需要，于2008年正式开设了“日语（国际经济贸易）方向”，并于2009年成为国家级特色专业建设点、2010年获得国家大学生创新性实验计划项目。因此，日语（国际经济贸易）的专业课程建设和大学生创新性能力的培养，成为日语专业特色建设工作的重点。经过4年多的努力，日语专业依托本校强势学科的优势，逐步形成了以培养具有国际视野和创新能力、跨文化交际能力的日语拔尖人才的教学特色。具体表现在以下几个方面。

1. 认定学分的教学实践课程：与明治大学合作的大学生《中日都市调查共同研究》的实践教学课程。
2. 国际学分的联合课程：与东京农工大学合作的、面向全校、文理交叉的《科技交流能力》国际学分课程。
3. 专业课程群国际化：与国外一流大学合作、使学生坐享国外一流教学资源的“国际经贸方向”课程系列。
4. 特色课程建设：依托本校优势学科资源、与明治大学共同建设的《时尚经贸》互换课程等诸方面。



特色专业建设以来的教学实践证明，东华大学日语专业在培养具有创新实践能力和跨文化交际能力的日语复合型拔尖人才方面，依托本校服装学院的强势学科的优势，形成了“国际学分课程”为中心的实践教学和“专业课程国际化”的内涵建设的模式，在提高学生的日语实际运用能力和跨文化交际能力，培养具有创新性能力的复合型拔尖日语人才方面产生了明显的效果，在高等教育中外国际合作交流领域，将“任务型国际合作”贯穿于整个专业建设，逐步形成了“人无我有、人有我新、人新我异”、与国外著名高校和企业进行深度合作的鲜明特色。

日本文化研究の可能性について

福田真人 (名古屋大学)

日本文化研究のテーマは豊富にある。

例えば、すぐに「富士山・芸者ガール・着物」と語る人は少なくない。しかし、これらの代表的な事物は目に見える。目に見えないものこそ難しい。

「わさび」は、目に見え、匂いにも分かり、そして味わえる食の文化だ。しかし、「わび、さび」等は、概念で、その意味が分かりにくいものの典型か。

無常観も、日本人にとって重要な感覚、概念だが、それではすぐさま誰でもその意味を解説できるかという、なかなか難しい。

次に、日本文化の輸出とその日常的認識について語りたい。その一例が「浮世絵」である。日本人は、浮世絵を日常生活の中で楽しんでいて、取り立てて芸術と見做していた訳ではない。ひとつの流行ものであり、商品であり、また嗜好品であった。それが、ふとしたことからフランスに陶器の包み紙として渡り、そこで彼の地の人々を驚愕させたのである。

ここから、技芸・工芸の概念はあったかも知れないが、芸術としての意味付けは希薄だったのではないか、ということが考えられる。

現代は、同様に身近なものが評価されている。漫画やアニメである。さらに、そこから派生したコスプレが、なかなかの勢いである。さらに、中華料理やフランス料理に対抗して、日本料理が流行になっている。いわく「寿司」、「天麩羅」、「うどん」、「ラーメン」(元中国料理)、そしてそれらを総称して「和食」と呼ぶ。

さらに、もっと思想史的テーマを考えてみよう。武士道、茶道、華道、隠居、アフリカの人々によって再認識させられた「もったいない」精神等々。

最後に、結核という病気を通して、病が美しい意味を持つに至る経緯を探ってみよう。それが、かつて西洋と東洋を同様に覆っていた、興味深い事象である事を確認してみよう。

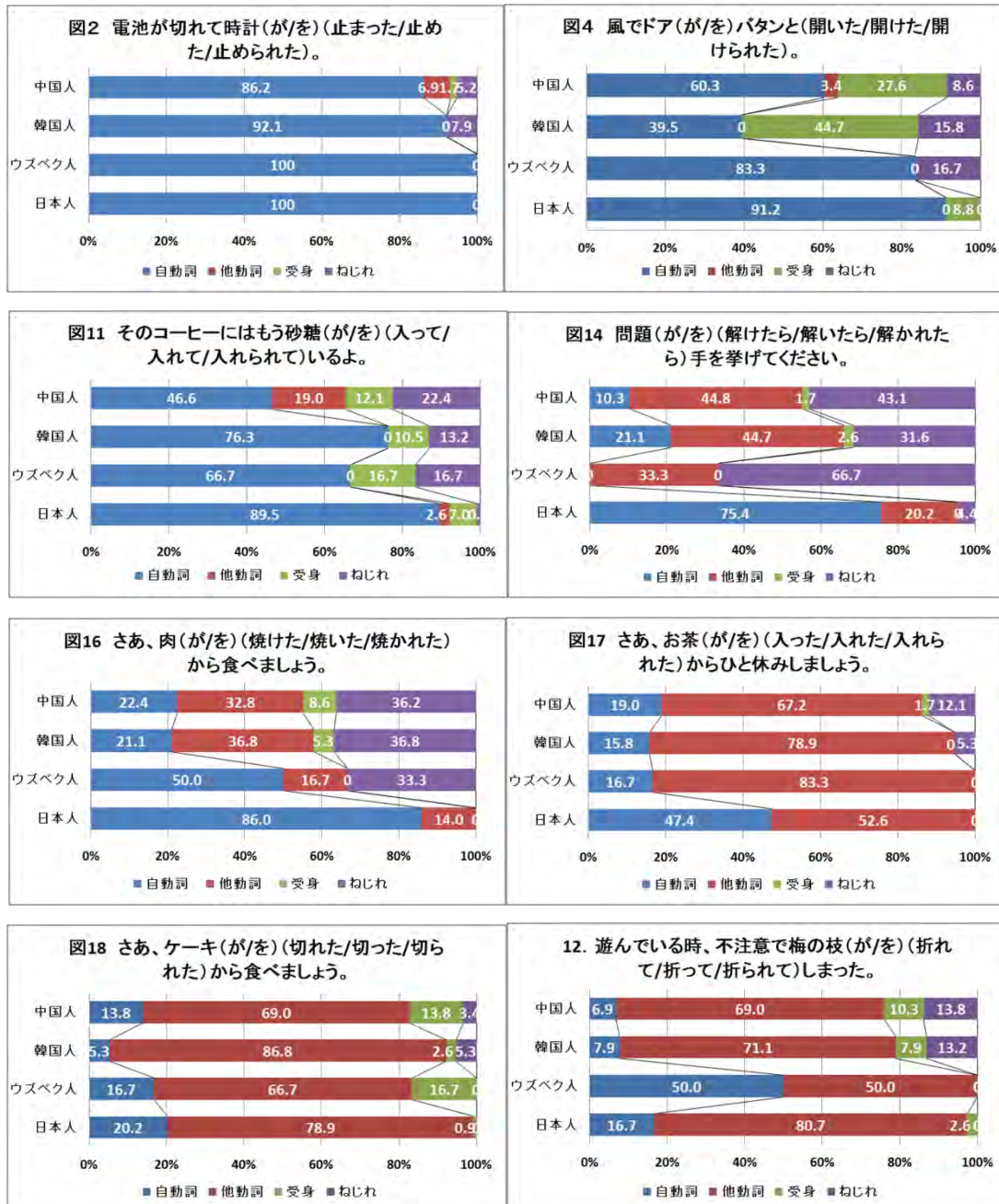
日本文化研究の可能性は、無限に大きい。

日本語教育のための文法研究

杉村泰 (名古屋大学)

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~sugimura/>

日本語の「自動詞」・「他動詞」・「受身」の選択



読解における橋渡し推論の重要性

—構造方程式モデリングによる語彙知識，文法知識，談話能力，テキスト理解の因果関係の検討—

玉岡 賀津雄 (名古屋大学)

E-mail: ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp Homepage: <http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~ktamaoka/>

外国語の習得においては、個々の文法項目や語彙を覚えることではなく、それらの知識を使って複数の文が集まったテキストの全体的な内容を正しく理解することが重要です。テキストは複数の文がランダムに配列されているわけではなく、ある一つの文と次に来る文とが意味的な関連性をもって結びつき、全体として一つの主張が作られています。そのため、一つの文が理解できたとしても、それを次の文と関連づけて全体を把握していく能力がなくては、テキスト全体を理解することはできないでしょう。このように文と文を繋いで理解していく「橋渡し推論 (bridging inferences)」を、談話能力 (discourse ability) と言います。

中国語を母語とする日本語学習者 281 名に対して 12 種類の能力テスト(観測変数)を実施し、そこから導かれる語彙知識，文法知識，談話能力，テキスト理解(読解と聴解)の 4 つの潜在変数の因果関係について、構造方程式モデリング (SEM; structural equation modelling) の手法でモデルとデータの適合を検討した研究 (Tamaoka et al. submitted) を紹介します。この研究では、談話能力を因果関係，意図的表現，照合判断の 3 つを観測変数として測定しました。結果を、(1)テキスト理解と語彙知識を仲介する談話能力，(2)語彙知識の役割，(3)文法知識の役割，の 3 点に要約します。

第 1 に、テキスト理解には、一連の流れがあり、文間の橋渡し推論である談話能力が、語彙知識とテキスト理解 (読解と聴解) を仲介しています。まず、個々の概念の理解を支える語彙知識があります。さらに形態素，語および語間の関係を決める規則である文法知識で各文の理解が支えられています。ただし、文法知識は談話能力に対して有意に貢献していないので、主に語彙知識が各文の理解および文間の推論を支えていると考えられます。テキスト全体の理解には、文と文の関係を推論する談話能力が必要であり、適切な談話能力無くして、テキストを的確に理解することはできないと思われま

第 2 に、語彙知識は談話能力を解してテキスト理解に大きく貢献しています。漢字二字で作られている語は、日本語の国語辞典に掲載された語彙のうちおよそ 70%にもなります(Yokosawa & Umeda, 1988)。そのため、中国語を母語とする日本語学習者は、母語の漢字と漢語の知識を中心とした語彙知識を活用して、個々の文や複数の文間の関係を理解するという方略をとっているのではないかと考えられます。実際、中国語を母語とする日本語学習者は、母語に漢字を表記形態として持たない日本語学習者に比べ、漢字二字からなる語を迅速に処理できることが分かっています (玉岡, 1997, 2000; 玉岡・メンツェル, 1994; Tamaoka & Menzel, 1995; 大和・玉岡, 2013, 2011; 大和・玉岡・初, 2013)。語彙知識は、文間の談話的な理解を促進し、ひいてはテキストの理解を達成するための基本知識として重要な役割を担っています。

第 3 に、文法知識は、談話能力とテキストの理解に大きく貢献しません。この研究では、テキスト理解や談話能力が文法知識に依存するような結果は得られませんでした。文法知識の影響が弱かった理由として次のようなことが考えられます。外国人に対する初級レベルの日本語の文法指導では、頻繁に「文型教育」あるいは「文型積み上げ方式」が使われます (ハント蔭山, 2004)。基本的な文型の数は多くはなく、ハント蔭山では 38 種類が挙げられているに過ぎません。また、日本語の動詞や形容詞の活用 (形態素変化)は、きわめて規則的であり、中国の日本語専攻生の場合、初級レベルでも、動詞を正しく活用させることができます (初・玉岡・大和, 2012)。日本語の一般的なテキストで難しい統語構造や活用を含む文が用いられることはあまりなく、基本的な文法知識があれば文を理解できると考えられます。その結果として、文法知識はあくまで基本的な文理解を支えていると思われま

言語類型論・認知類型論からみた日本語と中国語の相違点と類似点

堀江薫 (名古屋大学)

<http://horie.lang.nagoya-u.ac.jp/>

本講演では、世界の言語の構造的な（音韻・形態・統語上の）相違点と類似点を解明する学問分野である言語類型論（ウェイリー2006）と、言語の構造上の特徴と当該言語文化に特徴的な「発想」との相互関連を探究する認知類型論（堀江・パルデシ2009）の観点から、日本語と中国語の相違点と類似点を考察する。

形態類型論的観点からは、日本語は、単独で用いられる形態素（自由形態素＝語）と用いられない形態素（拘束形態素＝接辞）の区別、時制や否定等の文法的意味による述語の形態変化を有し、形態素の結びつき・配列が緊密でありかつ形態素間の境界が明確な「膠着型言語」である。一方、中国語は、述語の形態的变化がなく、自由・拘束形態素の区別がなくすべての形態素が「語」である「孤立型言語」である。語順類型論の観点からは日本語は世界の言語の中で最も多く観察される「主語（S）—目的語（O）—動詞（V）」（SOV）を基本語順とするのに対し、中国語は世界の言語において2番目に多く観察される「主語—動詞—目的語」（SVO）の語順を基本語順とする。

このように構造的相違点の多い両言語であるが、東アジアの言語として古代以来長い言語接触の歴史を有するゆえに日本語は中国語から膨大な量の漢語を借用しており、近代以降は中国語による日本語漢語の借用も見られる。また、興味深いことに、中国語はSVO言語としては珍しく、SOV言語である日本語と同じく、名詞を修飾節が修飾する場合、修飾節が前置されるという構造的な類似点が見られる(1a, b)。

(1)(a) [画家が愛した]風景

(b) [画家喜 覧] 风景

さらに、両言語とも「被害性」を表す受動文の用法や「主語」に対する「主題」の優先性など発想や言語使用面での類似点も観察される(2a, b)。

(2)(a) 電車の中で思い切り足を踏まれた。

(b) 在电车里, 被人狠狠地踩了一脚。

本講演では、「名詞修飾節」「受動文」という二つの言語現象を取り上げ、日本語と中国語の構造的・機能的な相違点・類似点と、発想・言語使用における相違点・類似点を指摘する。具体的には、以下の研究課題を探究する。

- (I) 日中語の名詞修飾節の間にはどのような構造的・機能的な相違点・類似点があり、その背後にはどのような発想・言語使用上の動機づけがあるか。
- (II) 日中語の受動文の間にはどのような構造的・機能的な相違点・類似点があり、その背後にはどのような発想・言語使用上の動機づけがあるか。

参考文献

- 堀江薫, プラシヤント・パルデシ(2009)『言語のタイポロジー—認知類型論のアプローチ』研究社（「認知言語学のフロンティアシリーズ」5巻）
- リンゼー・ウェイリー, 大堀壽夫他 (2006)『言語類型論入門—言語の普遍性と多様性—』岩波書店 (Whaley, Lindsay J. (1997) *Introduction to Linguistic Typology*. New York: Sage Publications.)

名古屋大学における研究生と院生の受け入れ

講演資料—名古屋大学大学院 国際言語文化研究科・参考サイト一覧

伊東章子 (名古屋大学)

itoh-a@lang.nagoya-u.ac.jp

- 名古屋大学トップページ

<http://www.nagoya-u.ac.jp/>

- 名古屋大学プロフィール 2013年版 (中文版 PDF)

http://www.iech.provost.nagoya-u.ac.jp/publicfiles/staff_kouhou/profile2013_cn.pdf

*名古屋大学全体の活動内容を紹介した冊子。日本語版、英語版も有り。

- 名古屋大学大学院 国際言語文化研究科トップページ

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>

- 名古屋大学大学院 国際言語文化研究科・研究科パンフレット (PDF)

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/pamphlet/pamph-2013.pdf>

*国際言語文化研究科の全講座を詳しく紹介した冊子。修了生の声も掲載されている。

- 名古屋大学大学院 国際言語文化研究科・教員一覧

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/staff.html>

*所属教員全員の研究テーマ、研究業績、担当授業、連絡先などをまとめて掲載。

- 名古屋大学大学院 国際言語文化研究科・大学院入試案内 (随時更新)

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/prospectus.html>

- 名古屋大学大学院 国際言語文化研究科・留学生相談室

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~prospective/>

*研究生応募についてはこちらを参照。

- Nagoya University Global 30

<http://admissions.g30.nagoya-u.ac.jp/en/>

*Comparative Studies of Language and Culture Program の募集・入試についてはこちらから。

- 名古屋大学大学院 国際言語文化研究科・留学生パンフレット (PDF)

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~prospective/ryugakusei-pamph.pdf>

*入学後の詳しい生活についてはこちらで紹介。

- 名古屋大学国際教育交流センターHP (旧留学生センター)

<http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/index.shtm>

2. 講演者プロフィール（講演順）

東華大学・日本名古屋大学国際言語文化研究学術交流研究会

-発表人物简介及发表摘要-

姓名	许慈惠
英语表記	Xu, Cihui
职称	教授
所属講座	日本語学；日本語教育
学历	博士
毕业院校	日本甲南女子大学
历任	上海外国语大学 日本文化经济学院院长 中国日本語教学研究会常務副会長 教育部外語教学指導委員会委員
研究领域	日语词汇语法研究 日语教学管理研究
主要著书及论文	① 转喻理论与日语结果宾语 解放军外国语学院学报 2011年 ② 移动动词对“を”格空间名词的他动作用 外语与外语教学 2011年 ③ 日语他动词的他动性强弱分析 日语学习与研究 2012年 ④ 日本語教育者要務への認識———中国日本語教育学界への期待をこめて」 同済大学日本教育と日本学研究シンポジウム 2013年 ⑤ 日本語教育質の向上への対策 東アジア日本語・日本文化研究 2014年
发表題目	日本語教育の質を保つための第二教室への工夫
发表摘要	世の中が変わっている、中国大学の日本語専攻の学生も昔ほど勉強しなくなっている、教育の質も落ちている。その背景にはいくつかの原因があるが、従来あるいは従来以上の大学教育の質を求めるために、われわれは教員として、その現象に対応し対策を考えなければならない。教室の延長としての課外活動や宿題の出題・添削など授業外、いわゆる第二教室の学習指導や介入管理を積極的に行うことが、対策になるであろう。

東華大学・名古屋大学 2014 年“国际语言文化研究”学术研讨会

-发表人物简介及发表摘要-

姓名	张厚泉	
英语表记	ZHANG, Houquan	
职称	东华大学外语及外语应用学研究科教授	
所属讲座	外国语及外国语应用语言学	
学历	学术博士	
毕业院校	杏林大学（日本）	
历任	明治大学商学部招請教授 东京大学东洋文化研究所高级访问研究员 中国日本語教学研究会常務理事	
研究领域	日语語学；日本語教育；日本近代化	
主要著书及论文	1. 《新版中日交流标准日本語（初級）电视辅导讲座 DVD》人民教育出版社 2006 年 2. 《新日本語教程（1-6 册）》人民教育出版社 2009 年 3. 《标准职业日语（第 1 册）》人民教育出版社 2009 年 4. 『漢字の本（初級(1)(2) 中級(1)(2)』講談社ビーシー 2011-2012 年 5. 《新編日語泛读教程（第一册）》华东师范大学出版社 2013 年 6. ISTP. The Curriculum Reform & Features of Japanese Language Dep. in Comprehensive University by the example of Japanese Language Dep. in Donghua University. Information Technology and Education Teaching. Scientific Research Publishing, Inc., 2011.376-383.	
发表题目	-东华大学日语专业的特色建设 -（与王蕾 李薇合作）	
发表摘要	<p>东华大学日语专业于 2009 年获得教育部财政部的国家级特色专业建设点后，经过五年的研究与实施建设，系统建构了与理工科相交叉、旨在培养具有创新能力和科技交流能力的、以国际学分课程为中心的日语拔尖人才培养模式。具体表现在：（1）与明治大学合作的中日大学生《都市交通与文化共同研究》教学实践课程；（2）与东京农工大学合作的面向全校、文理交叉的《科技交流能力》国际学分课程；（3）与国外一流大学合作、使学生坐享国外一流教学资源的“日语（国际经贸方向）”的专业课程系列；（4）依托本校优势学科资源、与明治大学共同建设的《时尚经贸》互换课程等诸方面，取得了较显著的教学效果。</p>	

东华大学・名古屋大学 2014 年“国际语言文化研究”学术研讨会

-发表人物简介及发表摘要-

姓名	王蕾	
英语表记	WANG, Lei	
职称	讲师	
所属讲座	外国语及外国语应用语言学	
学历	硕士	
毕业院校	德岛大学（日本）	
历任	日语系副主任 东京农工大学访问学者 明治大学商学部招請研究员	
研究领域	日语教学、中日比较	
主要著书及论文	1. 中日品牌命名特点比较分析 日本研究杂志社 《日本研究》 2013 年（单著） 2. 浅议日语感情形容词的用法特点 复旦大学出版社 《外语教学与研究论丛》2009 年（单著） 3. 《新日本语教程(高级)第二册》 人民教育出版社 2009 年 副主编 4. 《新版中日交流标准日本语同步测试卷(初级)》 人民教育出版社 2006 年 编者	
发表题目	-东华大学日语专业的特色建设 -（与张厚泉·李薇合作）	
发表摘要	<p>东华大学日语专业于 2009 年获得教育部财政部的国家级特色专业建设点后，经过五年的研究与实施建设，系统建构了与理工科相交叉、旨在培养具有创新能力和科技交流能力的、以国际学分课程为中心的日语拔尖人才培养模式。具体表现在：（1）与明治大学合作的中日大学生《都市交通与文化共同研究》教学实践课程；（2）与东京农工大学合作的面向全校、文理交叉的《科技交流能力》国际学分课程；（3）与国外一流大学合作、使学生坐享国外一流教学资源的“日语（国际经贸方向）”的专业课程系列；（4）依托本校优势学科资源、与明治大学共同建设的《时尚经贸》互换课程等诸方面，取得了较显著的教学效果。</p>	


东华大学・名古屋大学 2014 年“国际语言文化研究”学术研讨会

-发表人物简介及发表摘要-

姓名	李 薇	
英语表记	LI, Wei	
职称	副教授	
所属讲座	外国语及外国语应用语言学	
学历	硕士学位	
毕业院校	西安外国语大学	
历任	龙谷大学访问学者 东京农工大学访问学者 日语系主任助理	
研究领域	日语语言学；日语教学；课程与教学论	
主要著书及论文	1.『漢字の本（初級(1)(2)中級(1)(2)』（講談社ビーシー2011-2012 年） 2.日语常用会话手册，东华大学出版社，2009.2，主编 3.日语汉字表记偏误的研究，东华大学学报，2011.2 4.日本小学“英语活动”特色述评，外国中小学教育，2012.9	
发表题目	-东华大学日语系学生创新活动及教学实践-	
发表摘要	<p>作为日语系特色专业建设的一环，学生创新实践活动、国际交流及实践教学尤其受到重视。本次发表重点介绍东华大学日语专业首个国家级创新实践项目的开展情况。本专业以此项目为契机，开始了和明治大学的国际交流，其中在两校联合实施的“关于城市交通与文化的中日共同研究”项目中，中日两国大学生共同对中日两国的轨道交通、企业进行考察，并互相在对方大学汇报交流，开创了本专业任务型国际交流活动、国际学分的实践教学，并已连续三年得到日本学生支援机构的资助，成为东华大学日语专业和明治大学商学院最成果的实践教学的模式，取得了良好的教学效果。</p>	

東華大学・名古屋大学 2014 年“国际语言文化研究”学术研讨会

-发表人物简介及发表摘要-

姓名	张雅君	
英语表记	ZHANG, Yajun	
职称	副教授	
所属讲座	外国语及外国语应用语言学	
学历	硕士研究生	
毕业院校	熊本大学（日本）	
历任	东京农工大学访问学者 日语教材研究中心主任助理	
研究领域	日本近现代文学；日语教学	
主要著书及论文	<ol style="list-style-type: none"> 1. 构筑于相对世界中的审美艺术——以芥川龙之介作品《罗生门》为例 《学术论坛》 2013 年 2. 《挪威的森林》中的二元空间与都市叙述 《广西师范大学学报/哲学社会科学版》 2012 年 3. 雾里看花花非花——评夏目漱石作品的时空感 《外国文艺》 2012 年 4. 从樋口一叶的文学表现看近代日本女性的犹疑与摇摆 《学术论坛》 2011 年 5. 誤解による物語——『三四郎』論 《日语教学与研究论丛》 2009 年 	
发表题目	-东华大学・东京农工大学《科技交流能力》国际学分课程建设- 東華大学-東京農工大学「科学技術コミュニケーション能力育成」共同単位プログラム	
发表摘要	<p>东华大学从第一届学生起，每年选派 2 名优秀学生赴日本东京农工大学留学。随着教育国际化趋势的快速发展，两校交流的不断密切，两校于 2012 年正式合作、开设了面向全校学生的《科技交流能力》国际课程。该课程充分利用中日两国国的优秀教育资源，在课程设置上体现了文理交叉的跨学科特点。同时，该课程依托教育部国家级特色专业建设点——东华大学日语专业为平台，首先由具有日方研修经验的教师在国内给学生授课（14 课时），讲授日本文化、日本科技基础知识等基础课程，学生经过考核可获得 1 个学分。随后学生赴东京农工大学进行第二阶段的深化学习，由日方配备 2-3 名资深教授进行授课（28 课时），讲授日本先进的科技知识，培养学生跨学科的交流能力，通过自有选题，演示 P P T 等方式进行考核，合格的学生获得日方认定的 2 个学分。由此，学生通过国内外的联合授课学习，共获得国际共同学分 3 个学分。</p> <p>该国际课程还获得了日本文部省学生支援机构提供的、每期每人 8 万日元的资助。这一联合教学方式，不仅极具创新性和国际性，在培养学生科技交流能力、创新实践能力、拓展师生国际化视野、提高科研教学水平等方面，无论在日本还是中国都是首创，无疑具有十分重要的积极意义。</p>	


東華大学・名古屋大学 2014 年“国际语言文化研究”学术研讨会

-发表人物简介及发表摘要-

姓名	黄洁	
英语表记	HUANG, Jie	
职称	讲师	
所属讲座	日语语言与日本文化	
学历	硕士学位（南京大学），博士课程修（名古屋大学）	
毕业院校	南京大学，名古屋大学	
历任	东京农工大学访问学者 负责日语系外国专家指导	
研究领域	日本民俗信仰；日本非物质文化遗产	
主要著书及论文	1. 日本太阳-乌鸦崇拜中的生命律动. 当代宗教研究 2010 年第三期 2. 日本穆斯林社群与伊斯兰教的现状. 当代宗教研究 2012 年第二期	
发表题目	—科技交流能力培养与国际学分认定课程项目的建设— (与胡云雁、张雅君、李薇合作)	
发表摘要	<p>以培养科技交流能力，培养国际性科技产业理解能力为目的，东华大学与东京农工大学合作的面向全校、文理交叉的《科技交流能力》国际学分课程一年一度如期实施。其特色与重点在于：（1）国内的前期科技交流能力的培训课程的充实和日本科技产业的概观性理解的加强；（2）科技产业现场第一线以及科学实验室的体验以及理解的课程的充实；（3）在体验和模拟操作的基础上，通过发表和讨论，进一步形成自身的独到见解，培养批判性的考察习惯；（4）提高对国际性科技合作的关注和激发今后对科技理解与分析能力的持续性的积累。</p>	

东华大学・名古屋大学 2014 年“国际语言文化研究”学术研讨会

-发表人物简介及发表摘要-

姓名	福田 真人	
英语表记	FUKUDA, Mahito	
职称	名古屋大学大学院国际言语文化研究科教授，研究科科长	
所属讲座	日本言语文化专攻日本言语文化学讲座	
学历	学术博士学位	
毕业院校	东京大学	
历任	英国牛津大学客座研究员、 美国哈佛大学特邀研究员、 印度德里大学客座教授等。	
研究领域	比较文化史、 医学史、 19 世纪日英比较文化研究	
主要著书 及论文	《结核文化史》(名古屋大学出版会出版)、 《结核的文化》(中央公论社出版)、 《日本梅毒史研究》(思文阁出版)、 《医院和疾病》(YUMANI 书房)、 <i>The History of Health and the Modern State</i> (Rodopi B. V., Amsterdam) 、 <i>Health Transitions and the Double Disease Burden in Asia and the Pacific</i> (Routledge)等。	
发表题目	-探寻日本文化研究的可能性-	
发表摘要	<p>本次发表将追溯日本文化研究的动向，把握研究现状，通过分析，探寻新研究的可能性。</p> <p>基于从传统文化研究到近年转向较为流行・文化研究的现状，本人将会通过从电影研究、漫画研究、动漫研究过度，介绍一部分文化史的研究。例如，通过本次发表理解追溯医学和疾病的历史和至今为止被忽略的文学、百姓的恐惧心理及流行之间有着紧密的联系。</p> <p>通过本次发表期待有更新研究的萌芽产生。</p>	


东华大学・名古屋大学 2014 年“国际语言文化研究”学术研讨会

-发表人物简介及发表摘要-

姓名	杨 晓文	
英语表记	YANG, Xiaowen	
职称	名古屋大学大学院国际言语文化研究科教授	
所属讲座	国际多元文化专攻东亚言语文化讲座	
学历	文学博士学位	
毕业院校	神戸大学	
研究领域	中日比较文学・比较文化研究、 异文化国际理解研究、 世界华文文学研究	
主要著书 及论文	《异乡人和 Japanese——异文化为何物？国际理解为何物？》（白帝社出版） 《丰子恺研究》（东方书店）等。	
发表题目	-关于诺贝尔文学奖的学术研究-	
发表摘要	<p>诺贝尔奖始于 1901 年，是遵循硝化甘油炸药的发明人阿尔弗雷德·诺贝尔的遗嘱而创立的。诺贝尔奖分设物理学、化学、医学生理学、文学、和平、经济学六个奖项，授予前一年世界上在这些领域对人类作出重大贡献的人。至今，在亚洲被授予诺贝尔文学奖诺贝尔奖的有印度的泰戈尔、日本的川端康成及大江健三郎、以及法籍华裔高行健。本次发表将围绕亚洲诺贝尔获奖者的背景及特征进行阐述。</p>	

东华大学・名古屋大学 2014 年“国际语言文化研究”学术研讨会

-发表人物简介及发表摘要-

姓名	星野 幸代	
英语表记	HOSHINO, Yukiyo	
职称	名古屋大学大学院国际言语文化研究科准教授	
所属讲座	国际多元文化专攻	
学历	文学博士学位	
毕业院校	东京大学	
研究领域	近现代中国文学・文化、舞蹈史。	
主要著书及论文	《侯孝贤的诗学和时光的棱镜》(ARUMU 出版, 2012)、 “Dance as a Cross-Cultural Media: Xiao-bang Wu’s life between Tokyo and Shanghai in the 1930s.” <i>2012 Proceedings: Thirty-fifth Annual Conference, The University of the Arts, Philadelphia, Pennsylvania. Focus: Dance and the Social City.</i> (2012): 137-140 等。	
发表题目	-近现代日中比较舞蹈史-	
发表摘要	<p>中国近现代创作舞蹈家在晚年(20世纪90年代)作为中国舞蹈界的泰斗权威活跃于舞台上。他曾在日本留学,学习舞蹈,将日本的文化融入于舞蹈教育中。</p> <p>本次发表将从日中文化交流的视角,阐述近现代日中比较舞蹈史。</p>	

东华大学・名古屋大学 2014 年“国际语言文化研究”学术研讨会

-发表人物简介及发表摘要-

姓名	Dylan MCGEE	
职称	名古屋大学大学院国际言语文化研究科特任准教授	
所属讲座	言语文化比较研究讲座 (G30)	
学历	博士学位 (中日比较文学)	
毕业院校	美国普林斯顿大学	
研究领域	近世日本文学・出版文化、 中日比较文学、 翻译・评论	
主要著书及论文	<p>“Turrets of Time: Clocks and the Configuration of Narrative Time in Edo Fiction (1780-1796). <i>Early Modern Japan: An Interdisciplinary Journal</i> (2011): Forthcoming.</p> <p>“The History and Performance Aesthetics of Early Modern <i>Chaban Kyogen</i>,” <i>Early Modern Japan: An Interdisciplinary Journal</i> (2010):126-135.等。</p>	
发表题目	-近世日本对《水浒传》的翻译及改编-	
发表摘要	<p>本次发表首先介绍中国白话小说《水浒传》于近世日本的流通及欣赏之背景，其次考察所谓“水浒传物”的改编作品群。中国白话小说的翻译作品之中，冈岛冠山所著的《通俗忠义水浒传》作为最早的翻译而众所周知。另外冈岛本人对上方地方的汉学者及文人有更大的影响，刺激了白话小说的流行。冈岛辞世后，试作翻译《水浒传》或其他中国小说的作者为数不少。这种翻译及改编的惯行衍生了新的文学部类，称之为“读本”。读本有三个特色：知识的开陈，雅俗折衷的文体，教训和奇谈。日本宽政时期以来，商业出版之中心从上方移到了江戸，山东京传（1761—1816）和曲亭马琴（1767—1848）著作的改编作品极有人气，成了大众文学最畅销的作品。在本次发表中，本人将京传所著的《忠臣水浒传》跟《水浒传》进行比较，考察于近世日本的中国白话小说的翻译及改编的经纬。</p>	


东华大学・名古屋大学 2014 年“国际语言文化研究”学术研讨会

-发表人物简介及发表摘要-

姓名	杉村 泰	
英语表记	SUGIMURA, Yasushi	
职称	名古屋大学大学院国际言语文化研究科准教授，讲座长	
所属讲座	日本語文化専攻日本語教育学講座	
学历	学术博士学位	
毕业院校	名古屋大学	
研究领域	日本語学、 日本語教育、 中国語教育	
主要著书 及论文	《日与语法问题解疑》（外语教学与研究出版社，2007）、 《在现代汉语中表示盖然性语气副词的研究》（HITSUJI 书房，2009）等。	
发表题目	-关于日语教育的语法研究-	
发表摘要	<p>本次发表通过揭示日语母语话者和日语学习者对事态捕捉方法的不同，从而提出有助于日语教育的说明。</p> <p>例如：日语母语话者对例句（1）会倾向于选择自动词，对例句（2）会倾向于选择他动词，对例句（3）会倾向于选择自动词和他动词。</p> <p>例句</p> <p>(1) さあ，肉 {が焼けた/? を焼いた/*が焼かれた} から食べよう。</p> <p>(2) さあ，ケーキ {? が切れた/を切った/? が切られた} から食べよう。</p> <p>(3) さあ，お茶 {が入った/を入れた/*が入れられた} から一休みしよう。</p> <p>但是，对日语学习者来说，他们不明白这样使用区别的基准。任何场合都倾向于选择他动词。</p> <p>本次发表通过揭示日语母语话者和日语学习者对事态捕捉方法的不同，从而提出有助于日语学习者更有效地理解日语自动词・他动词・被动的使用区别的说明方法。</p>	

東華大学・名古屋大学 2014 年“国际语言文化研究”学术研讨会

-发表人物简介及发表摘要-

姓名	玉冈 贺津雄	
英语表记	TAMAOKA, Katsuo	
职称	名古屋大学大学院国际言语文化研究科教授，研究科副科长	
所属	日本言语文化专攻日语教育学讲座	
学历	学术博士学位	
毕业院校	加拿大 University of Saskatchewan	
研究领域	心理语言学、 第二言语习得、 语言认知处理	
主要著书 及论文	Tamaoka, K., Saito, N., Kiyama, S., Timmer, K., & Verdonschot, R.G. (2014). Is pitch accent necessary for comprehension by native Japanese speakers? An ERP investigation. <i>Journal of Neurolinguistics</i> , 27, 31-40. Tamaoka, K., Asano, M., Miyaoka, Y., & Yokosawa, K. (2013). Pre-and post-head processing for single-and double-scrambled sentences of a head-final language as measured by the eye tracking method. <i>Journal of Psycholinguistic Research</i> , 43, 167-185. など	
发表题目	-在阅读理解中中间推论的重要性-	
发表摘要	<p>一直以来，在阅读理解中各个词汇概念的词汇知识及词汇之间关系的语法知识的影响被众人探讨。然而，即使使用这两种知识去理解文章，要是关于句与句之间关系的“中间推论(bridging inference)”不正确，那么，文章全体内容的理解（阅读，听力）就无法达成。作为母语，由于这种推论是自动，并且是无意识进行的，所以很难看清它们相互间的影响关系。不过可以设想：在外语学习中，中间推论对文章理解的影响是显著的。为此，本人对以汉语为母语的日语学习者实施：词汇知识、语法知识、谈话能力（中间推论）、文章理解，这 4 个因果关系的调查。围绕对日语教育的意义，展开议论。</p>	

东华大学・名古屋大学 2014 年“国际语言文化研究”学术研讨会

-发表人物简介及发表摘要-

姓名	堀江 薫	
英语表记	HORIE, Kaoru	
职称	名古屋大学大学院国际言语文化研究科教授	
所属讲座	日本語文化专攻应用言语学讲座	
学历	语言博士学位	
毕业院校	南加利福尼亚大学	
研究领域	言语类型论・对照言语学・认知类型论（特别是日韩对照言语学）、 语用论・历史言语学（特别是文法化研究）・言语接触、 （应用）认知言语学・机能主义言语学等	
主要著书 及论文	2000a. <i>Complementation: Cognitive and Functional Perspectives</i> . John Benjamins. (<i>Converging Evidence in Language and Communication Research Series 1</i>)（编 著）. 2000b. Core-oblique Distinction and Nominalizer Choice in Japanese and Korean. <i>Studies in Language</i> 24.1, 77-102.等。	
发表题目	-从言语类型论・认知类型论看日语和汉语的不同点及类似点-	
发表摘要	<p>本次发表从根据世界言语构造的特征进行分类的言语类型论，及探求言语类型和思维类型的相关的认知类型论的观点出发，考察日语和汉语的形态・统语构造特征的不同点及类似点。</p> <p>具体指，“语序”、“名词修饰句”、“受动表现”、“移动路径・样态的表现”，这类的构造特征进行两种语言的对照比较。</p>	

封底